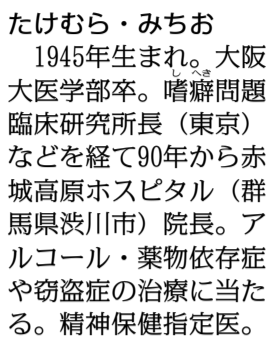


竹村 道夫 赤城高原ホスピタル院長



たけむら・みちお 1945年生まれ。大阪大医学部卒。精神科臨床研究部長(東京)などを経て90年から赤城高原ホスピタル(群馬県渋川市)院長。アルコール・薬物依存症や窃盗症の治療に当たる。精神保健指定医。

窃盗症には医療支援を

米国精神医学会が2015年に公表した精神疾患の診断基準(DSM-5)によると、万引きで逮捕された人のうち4〜24%に窃盗症(クレプトマニア)がみられるという。病気が原因の万引きがほとんど存在することは一概には知られていない。窃盗症の診断を巡っては「犯罪行為が精神症状か」という論題に直向きせられるが、私は窃盗症患者であっても、原則として責任能力を認められる立場である。一方、治療が回復が見込める人には、可能な範囲で医学

的な支援をすべきだと思ふ。私は2000年ごろから窃盗症患者の治療に取り組んできた。診察した窃盗症患者は約1600人以上。多くはリスクに見合わないような頻度の万引きを日常的に繰り返している。アルコール、ギャンブルなどの依存症と同じように、めったにやめられないという症状がみられる。さらに、「自分は根性が悪いから万引きをやめられない」と思い込むなど、病気を認める人が少ない。診察した患者のうち約3割は

この映画は現代日本社会の断面をうまく描いている。心身に傷を負った者が情熱的につながって家族のような共同体を形成し、支え合っている。見終わって温かい印象が残ったのは製作者の弱者への優しい視線と、社会のあり方への真摯な問いかけがあるからだ。万引きをはじめ犯罪は否か、その過酷な成り立ちや生活実態があることが少なくない。ある意味で社会が犯罪を生んでいる。犯罪者の多くは虐待被害や貧困を経験し、社会から排除されてきた。家族の介護で追い詰められた人もいる。つまり、加害者と被害者は断たれた対岸の事柄ではなく、隣接している。映画では幼女が母親から虐待を受け、母親は家庭内暴力の被害者であることが暗示されている。暴力を振るう夫は児童虐待の被害者でもあり、加害者でもあり、あるいは職場で過度の圧力にさらされてストレスをため込んでいたらしい。烈しい競争社会の犠牲者たる。結局、被害と加害は循環し、社会は間接的に加害に加担している。一方、社会の底辺にいたる人々を、社会の底辺に支えていける。弱い立場に支援できるという。弱い立場にある人ほど生計や住居、就労、健康、社会関係などの面で複合した問題を抱えているが、公的サービスを利用せず、困

窮を自分の責任に帰する傾向がある。そのため、事態が一層悪化して一貫の連鎖に陥り、極端な場合には犯罪や自殺に走ることをさえある。恵まれない人々をどう救い、いかに社会に統合していくかは、社会正義を考える上で重要な指標となる。弱者を支える営みを広げれば、万引きなどの犯罪が減るだけではない。日本は連帯や協働の伝統を取り戻し、各美ともに安全で堅実な社会を築ける。万引きの理由はさまざま。幼少期に高年の愛情不足を物で埋める。中学以降の学校での不満の憂鬱。早稲や肝試しで高齢者の社会への不信感や老後の不安。社会が挙げられる。生きつらさを抱える人々が物心の穴を埋めようと商品を買ってしまう。万引きによって、抱える問題自体は解決しない。たとえ同情できない事情があっても、犯罪は許容できない。犯罪によって甚大な被害が生じており、罪に負けた責任を取らせるべきだ。それが犯罪者を社会に再統合する前提であり、刑事司法の危険から守る。ただ、刑事司法の手続きの中で犯罪者の事情が十分に考慮され、公正な処罰がなされるべきである。重刑を受けざるを得ない場合もある。手続の中で犯罪者の尊厳が守られ、自分は理解されたと感じれば判決内容に納得ができる。それが国家や社会への信頼につながる。その上で、社会復帰のための支援が必要となる。犯罪者の生活再建には住居や就労の支援、更生を促す関係性が必要である。公的支援が不可欠である。犯罪者の生活再建には住居や就労の支援、更生を促す関係性が必要である。公的支援が不可欠である。犯罪者の生活再建には住居や就労の支援、更生を促す関係性が必要である。公的支援が不可欠である。

【聞き手・森忠彦、写真】

万引きが増えているのも特徴だ。2003年末に東京都庁で都や警視庁、弁護士、小売業、教育関係者などが初めて一堂に集って実態と対策を議論し翌年、都庁万引防止協議会ができた。小売業団体や各地の組織も加わり05年に全国万引防止協議会が発足。現在86組織などが参加し、青少年の意識調査や学校での啓発活動、小売店の被害実態調査を行っている。万引きは長い間、青少年が中心の軽微な犯罪とみられてきた。しかし、最近、刑法犯は全体では大幅に減っているが、万引きは微減で、刑法犯に占める割合は10%以上に上る。今や警察の検挙者の3人に1人が万引き犯だ。我々の調査による推計では年間被害者は4600億以上に及ぶ。

万引きの実態はここ5、6年ほどに大きく変わってきた。まず、外国人による集団窃盗が横行し、中でも、高額の渡航資金の返済に苦しむ留学生の存在が目立つ。インターネットオークションの発達で転売しやすくなったことも万引きを助長している。小売店の中でも書店の被害が深刻だ。最近の事案では、東京や大阪で盗んだ1000冊以上の高額書籍をネット販売していた。また、高齢者の

「万引きを助長するような内容がない」という前提で「取材協力」が多々の方々に問題を考えたい。ただ、きつかけになければ期待しきれない。ただ、個人としては、映画の中の話とはいえず、親(大人)が子どもに万引きをさせるシチュエーションは見たくない。「いったい子どもに何とどういことをさせるのか?」子どもの将来はどうなるのか?と痛ましく感じている。曲解が広まることを願っていない。

「聞き手・森忠彦、写真」

万引き 解決への道は

カンヌ国際映画祭で最高賞「パルムドール」に輝いた是枝裕和監督の映画「万引き家族」が話題になっている。貧困の中、万引きで生活費を補いながら生きる一家の「絆」が印象的だ。だが、現実社会では、万引きははつきとした犯罪(窃盗罪)であり、小売業者らにとっては深刻な問題だ。解決への道はあるのだろうか。

万引きは古くて新しい世界共通の問題だが、日本で本格的に取り上げられたのは15年ほど前からだ。2003年末に東京都庁で都や警視庁、弁護士、小売業、教育関係者などが初めて一堂に集って実態と対策を議論し翌年、都庁万引防止協議会ができた。小売業団体や各地の組織も加わり05年に全国万引防止協議会が発足。現在86組織などが参加し、青少年の意識調査や学校での啓発活動、小売店の被害実態調査を行っている。万引きは長い間、青少年が中心の軽微な犯罪とみられてきた。しかし、最近、刑法犯は全体では大幅に減っているが、万引きは微減で、刑法犯に占める割合は10%以上に上る。今や警察の検挙者の3人に1人が万引き犯だ。我々の調査による推計では年間被害者は4600億以上に及ぶ。

情報共有 対策に活用して

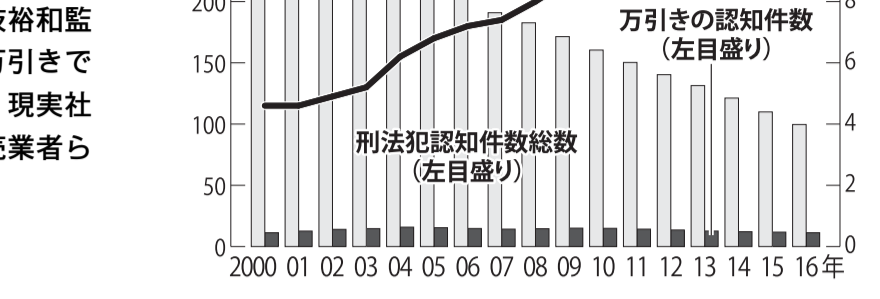
ネット上の盗品追跡防止対策の検討も当機構と関係企業の間で本格にスタートした。古般を破り、美観から目をそらすように万引き対策全般をリードするような心ある小売業の経営者の登場が待たれる。警察もはじか関係官庁の本気の取り組みが欠かせない。

この映画は現代日本社会の断面をうまく描いている。心身に傷を負った者が情熱的につながって家族のような共同体を形成し、支え合っている。見終わって温かい印象が残ったのは製作者の弱者への優しい視線と、社会のあり方への真摯な問いかけがあるからだ。万引きをはじめ犯罪は否か、その過酷な成り立ちや生活実態があることが少なくない。ある意味で社会が犯罪を生んでいる。犯罪者の多くは虐待被害や貧困を経験し、社会から排除されてきた。家族の介護で追い詰められた人もいる。つまり、加害者と被害者は断たれた対岸の事柄ではなく、隣接している。映画では幼女が母親から虐待を受け、母親は家庭内暴力の被害者であることが暗示されている。暴力を振るう夫は児童虐待の被害者でもあり、加害者でもあり、あるいは職場で過度の圧力にさらされてストレスをため込んでいたらしい。烈しい競争社会の犠牲者たる。結局、被害と加害は循環し、社会は間接的に加害に加担している。一方、社会の底辺にいたる人々を、社会の底辺に支えていける。弱い立場に支援できるという。弱い立場にある人ほど生計や住居、就労、健康、社会関係などの面で複合した問題を抱えているが、公的サービスを利用せず、困

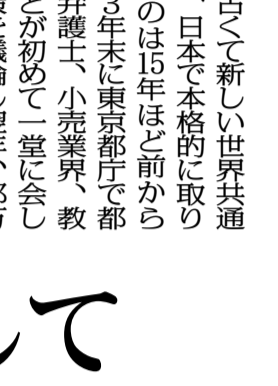
窮を自分の責任に帰する傾向がある。そのため、事態が一層悪化して一貫の連鎖に陥り、極端な場合には犯罪や自殺に走ることをさえある。恵まれない人々をどう救い、いかに社会に統合していくかは、社会正義を考える上で重要な指標となる。弱者を支える営みを広げれば、万引きなどの犯罪が減るだけではない。日本は連帯や協働の伝統を取り戻し、各美ともに安全で堅実な社会を築ける。万引きの理由はさまざま。幼少期に高年の愛情不足を物で埋める。中学以降の学校での不満の憂鬱。早稲や肝試しで高齢者の社会への不信感や老後の不安。社会が挙げられる。生きつらさを抱える人々が物心の穴を埋めようと商品を買ってしまう。万引きによって、抱える問題自体は解決しない。たとえ同情できない事情があっても、犯罪は許容できない。犯罪によって甚大な被害が生じており、罪に負けた責任を取らせるべきだ。それが犯罪者を社会に再統合する前提であり、刑事司法の危険から守る。ただ、刑事司法の手続きの中で犯罪者の事情が十分に考慮され、公正な処罰がなされるべきである。重刑を受けざるを得ない場合もある。手続の中で犯罪者の尊厳が守られ、自分は理解されたと感じれば判決内容に納得ができる。それが国家や社会への信頼につながる。その上で、社会復帰のための支援が必要となる。犯罪者の生活再建には住居や就労の支援、更生を促す関係性が必要である。公的支援が不可欠である。犯罪者の生活再建には住居や就労の支援、更生を促す関係性が必要である。公的支援が不可欠である。

【聞き手・森忠彦、写真】

全刑犯に占める万引きの割合



竹花 豊 全国万引犯罪防止機構理事長



たけはな・ゆたか 1949年生まれ。東京大卒業、警察庁入庁。広島県警本部長などを経て、2003年から東京都の青少年・治安担当副知事として殉職や万引き問題にも取り組んだ。15年から現職。

万引きが増えているのも特徴だ。2003年末に東京都庁で都や警視庁、弁護士、小売業、教育関係者などが初めて一堂に集って実態と対策を議論し翌年、都庁万引防止協議会ができた。小売業団体や各地の組織も加わり05年に全国万引防止協議会が発足。現在86組織などが参加し、青少年の意識調査や学校での啓発活動、小売店の被害実態調査を行っている。万引きは長い間、青少年が中心の軽微な犯罪とみられてきた。しかし、最近、刑法犯は全体では大幅に減っているが、万引きは微減で、刑法犯に占める割合は10%以上に上る。今や警察の検挙者の3人に1人が万引き犯だ。我々の調査による推計では年間被害者は4600億以上に及ぶ。

公正な処分後 社会統合へ

この映画は現代日本社会の断面をうまく描いている。心身に傷を負った者が情熱的につながって家族のような共同体を形成し、支え合っている。見終わって温かい印象が残ったのは製作者の弱者への優しい視線と、社会のあり方への真摯な問いかけがあるからだ。万引きをはじめ犯罪は否か、その過酷な成り立ちや生活実態があることが少なくない。ある意味で社会が犯罪を生んでいる。犯罪者の多くは虐待被害や貧困を経験し、社会から排除されてきた。家族の介護で追い詰められた人もいる。つまり、加害者と被害者は断たれた対岸の事柄ではなく、隣接している。映画では幼女が母親から虐待を受け、母親は家庭内暴力の被害者であることが暗示されている。暴力を振るう夫は児童虐待の被害者でもあり、加害者でもあり、あるいは職場で過度の圧力にさらされてストレスをため込んでいたらしい。烈しい競争社会の犠牲者たる。結局、被害と加害は循環し、社会は間接的に加害に加担している。一方、社会の底辺にいたる人々を、社会の底辺に支えていける。弱い立場に支援できるという。弱い立場にある人ほど生計や住居、就労、健康、社会関係などの面で複合した問題を抱えているが、公的サービスを利用せず、困

窮を自分の責任に帰する傾向がある。そのため、事態が一層悪化して一貫の連鎖に陥り、極端な場合には犯罪や自殺に走ることをさえある。恵まれない人々をどう救い、いかに社会に統合していくかは、社会正義を考える上で重要な指標となる。弱者を支える営みを広げれば、万引きなどの犯罪が減るだけではない。日本は連帯や協働の伝統を取り戻し、各美ともに安全で堅実な社会を築ける。万引きの理由はさまざま。幼少期に高年の愛情不足を物で埋める。中学以降の学校での不満の憂鬱。早稲や肝試しで高齢者の社会への不信感や老後の不安。社会が挙げられる。生きつらさを抱える人々が物心の穴を埋めようと商品を買ってしまう。万引きによって、抱える問題自体は解決しない。たとえ同情できない事情があっても、犯罪は許容できない。犯罪によって甚大な被害が生じており、罪に負けた責任を取らせるべきだ。それが犯罪者を社会に再統合する前提であり、刑事司法の危険から守る。ただ、刑事司法の手続きの中で犯罪者の事情が十分に考慮され、公正な処罰がなされるべきである。重刑を受けざるを得ない場合もある。手続の中で犯罪者の尊厳が守られ、自分は理解されたと感じれば判決内容に納得ができる。それが国家や社会への信頼につながる。その上で、社会復帰のための支援が必要となる。犯罪者の生活再建には住居や就労の支援、更生を促す関係性が必要である。公的支援が不可欠である。犯罪者の生活再建には住居や就労の支援、更生を促す関係性が必要である。公的支援が不可欠である。

【聞き手・森忠彦、写真】

Financial market data table including stock indices (TOPIX, Nikkei 225), sector indices (Construction, Chemicals, etc.), and individual stock prices.

Table with financial data, including 'オープン投信' (Open Investment) and '新株予約権付株価' (Share Price with Warrant Rights).